

市民の手づくり舞台

奥州の冬の風物詩、市民による手づくり舞台。厳しい寒さの中、大勢のスタッフが丸となり、準備や稽古に励んできました。脚本、舞台装置、小道具、衣装、音響、照明――

全てを自ら考え、作り、運営した舞台。3会場はいずれも満席となり、感動と涙に包まれました。キャストやスタッフには、観客から惜しみない拍手が送られていました。

● 1月31日、2月1日
第7回奥州市民★文士劇
「源義経――行くぞ弁慶！これがオレの決めた道――」
江刺体育文化会館（ささらホール）

● 2月15日
第15回奥州前沢劇場
「そもさん！――東稲山に桜咲く――」
前沢ふれあいセンター

● 2月22日
第31回奥州胆沢劇場
「黄金の稲穂――不撓不屈の二ノ台の民――」
胆沢文化創造センター

第7回奥州市民★文士劇

源義経

――行くぞ弁慶！
これがオレの決めた道――

平家により源氏一族を滅ぼされ、鞍馬山に預けられた牛若（後の源義経）。伊豆に流された腹違いの兄・源頼朝と共に源氏再興を果たすことを強く望んでいた。牛若は鞍馬山を離れ、弁慶、伊勢三郎と共に奥州平泉へ向かう。平泉を治める藤原秀衡の下で戦を学び、やがて元服した牛若は名を源義経と改めた。頼朝が源氏再興の兵を挙げた事を知ると、義経は秀衡の制止を振り切って出陣。頼朝と念願の対面を果たすと、兄のためと戦い、瞬く間に平家を討ち滅ぼす。しかし、秀衡を日本統一の妨げと考えた頼朝は、平泉とつながりのある義経を敵視するように……。都を追われた義経は、重大な決心をし、北に向かい旅立った。



1 牛若は平泉にたどり着くが、秀衡の息子・泰衡と一騒動 2 恋人の静御前と再会を果たすも、追っ手から逃れるため再び離れ離れに 3 平泉を攻め、天下統一をもくろむ頼朝 4 文士劇の見せ場、殺陣のシーン。油断していた平家を義経が奇襲する 5 歌舞伎「勧進帳」を模した一幕 6 義経は第二のふるさとを守るため、奥州平泉を去る決断をする



第31回奥州胆沢劇場

こがね はな

黄金の稲穂

不撓不屈の二ノ台の民

米どころ胆沢。高台にある小山の二ノ台は、その昔、水不足による不作に悩まされていた。そんな中、殿様の命により堰づくりの話が持ち上がる。「これで十分な水が引ける」と喜ぶ者、「夢物語だ」と反対する者――村人の思いが交錯する中、庄屋・十兵衛の先導で堰掘りが始まる。しかし、工事中に不幸な事故が起こり……。二ノ台堰開削に挑んだ先人たちの不撓不屈の精神を描いた。



1 亡き父・十兵衛が残した手紙を読み、息子の正吉は工事再開を決意する 2 堰掘りに夢が膨らみ、張り切る村人たち 3 落盤事故が発生。工事は命懸けだった 4 堰の完成により、二ノ台の地には豊かな水が流れ、辺りは黄金色の田園が広がった



第15回奥州前沢劇場

そもさん！

――東稲山に桜咲く――

無口で頑固者の巖と、明るく誰からも愛される妻ユリ子。突然倒れ、入院することになってしまったユリ子を元気づけるため、近所の少年たちと東京からやってきた孫の明莉は、ユリ子が口にした謎の言葉「そもさん」を探しに出掛けて行く。祖父母の秘密と父親の過去を知った明莉は、大人たちの“仲直り”の舞台に、巖のふるさと赤生津の月山神社を選んだ――。

家族の愛と地域の底力、農業や郷土芸能を守り伝えていく大切さを訴える舞台を作り上げた。



1 「桜が見たい」というユリ子の望みを叶える約束をする明莉 2 若かりしころの巖とユリ子 3 祖父母のために、二人が出会った月山神社で明莉は神楽を披露する 4 巖が初めて涙を見せ、ユリ子に「そもさん！なぜ一緒にいてくれるのか」と問う。「そもさん」は禅問答の前置き 5 家族の仲直りを祝福するように、桜が満開に

